

■ 想定される来訪者

今後世界遺産に登録されると熊野三山へ向かう人の流れが増大し、その中で熊野古道へ立ち寄る人も増加すると考えられる。

熊野古道への来訪者は、その圧倒的多数が「熊野古道」を歩くことを目的にした人たちと考えられる。

そのことから、「熊野古道センター」への来訪者は次のような人たちが想定され、来訪者のニーズに合わせた機能設計が重要である。

時間的余裕がある熊野古道ウォーカー

現在、圧倒的多数を占める日帰りの古道ウォーカーは現状の交通アクセスでは、古道ウォークの前後に立ち寄ることは不可能に近い。

(馬越峠を歩いた人たちが下山後に立ち寄る程度は可能)

- 宿泊を計画してこの地域を訪れた人

キーポイント→さらなる情報提供 滞在時間の有効活用と次の来訪を促す情報(宿泊、観光、イベント、食 etc.)

- 次のような日帰りの人
自由な交通手段を持った人
県内に在住する人

キーポイント→交通政策、PR(古道センターへの案内(存在、アクセス)、バス会社への働きかけ、旅行会社との連携)

古道ウォーク以外にセンターを目的にする人

- 地域拠点として訪れる人
東紀州地域や隣接県への来訪を目的とする立寄
- 研究意欲の高い人
歴史、自然、民俗などの愛好者、研究者、大学生(大学との連携)
- 地域学習などに訪れる地元を中心にした児童生徒
県内小中高等学校生、社会見学等
- 古道センターで開催される活動・事業を目的とした人
社会教育活動、文化事業、体験、カルチャースクール、健康
- 施設見学をしたいと考えている人

キーポイント→繰り返し来たくなる施設に

キーポイント→広く深い知識と情報の蓄積

キーポイント→きっかけづくり

キーポイント→地元密着(すべての活動をセンターで行うのではなく、コーディネートしていく)

キーポイント→建物そのものへの魅力づくり

食事や物産を目的に訪ねる人は多くないと考えられる。

ただし、滞在時間が長くなる人のために簡単な対応は必要と考えられる。

情報は事前に得ることが多いと予想される(地理的な状況から時間ロスを出さないため事前告知が重要)

雨・荒天等で現地へ行くことができなかった人

- 緊急的に訪れる人

キーポイント→熊野古道への興味の幅を広げる対応(映像、別の季節、別の峠)